

Extension Lectures 医療講座

解説 放射線診断科
大竹 優太 医師



\\ 病気を早期発見!!! //

治療のカギとなる
佐々総合病院の



画像診断

■ 放射線診断医のしごと

当院の放射線診断科には、診断専門医の資格を有する放射線科医が、私を含め2名常勤しています。検査に携わる放射線技師や看護師と協力しながら、日々、画像診断の業務を遂行しております。一般撮影やマンモグラ

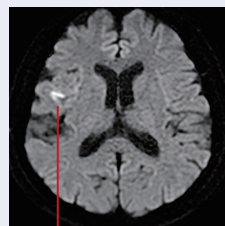
フィー、X線透視、血管撮影なども稼働しておりますが、放射線科医の診断業務はCT・MRI検査の読影・レポート作成が主軸となっています。そこで、CTとMRIの検査に焦点を当て、当院の画像診断について説明していきます。

■ CTとMRIは、こう使い分ける!

CT	MRI
得意分野 脳・頭蓋骨内の出血、肺がんや肺炎、尿路結石、全身の緊急検査(短時間で撮影できる)、腸炎や腸閉塞	得意分野 早期脳梗塞、スポーツ外傷・加齢に伴う慢性疾患、脳動脈瘤、軟骨、靭帯・半月板、神経、骨腫瘍病変、子宮・卵巣、前立腺・膀胱
特徴 骨による影響を受けるものの、1mm以下の微小な病変も描出することが可能。細かく小さな病変も検出でき、なおかつ、「空間分解能」が非常に高いため、広い範囲を短時間で撮影でき、緊急時の検査・スクリーニングに適しています。装置1台あたりの検査件数はMRIより多く、CT検査は画像診断の重要な位置を占めています。	特徴 「組織分解能」が高いことが長所です。骨の影響を受けにくく、病変と正常組織の差がわかりやすく描出され、造影剤を用いなくても血管を写すことができます。
画像・機器 	画像・機器 



肺炎



脳梗塞



（ CTとMRIには、それぞれに得意なところと不得意なところがあり、それに合わせて各検査を使い分け、時には他の検査と複合的に組み合わせ、補完し合うことにより診断やスクリーニングを行っています。 ）

■ CTとMRI両方の検査を受けることがある??

受診の際に複数の検査をお願いすることが少なくありません。「MRI検査をしたのに、なぜCT検査も受けないといけないのですか?」という相談を受けることがあります。

どの検査も単独で評価するには限界があり、病気ごと・臓器ごとに行うべき検査が異なるため、MRIだけでは得られない情報も、CT検査だけでは得られない情報も数多く存在します。複数の検査を受けていただく

理由は、それぞれの検査を複合的に組み合わせて、情報を相互に補完し合い、総合的に病気を診断し、病気の有無のスクリーニングをするためです。

検査には、患者さまのご理解と同意が必須です。患者さまが納得されていない場合は、検査を行いません。もし、検査目的・内容に関する質問や不安がある場合は、医師や医療スタッフに遠慮なく相談してみてください。